
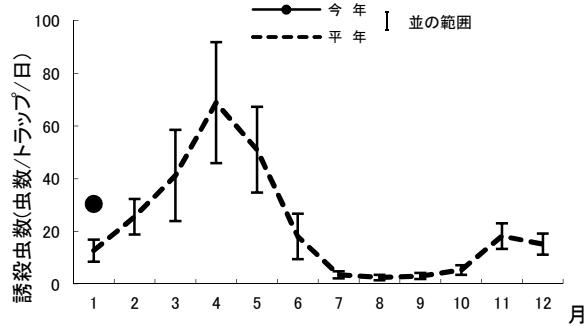
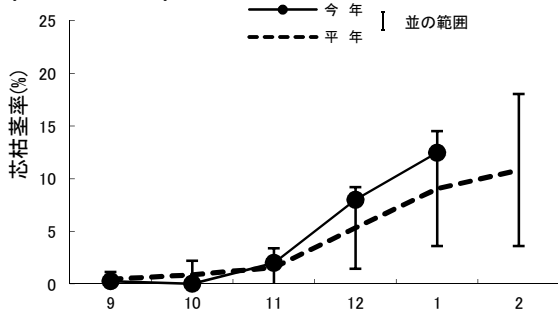


作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
1月の発生量 (現況)	並		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯莖率及びトラップ誘殺虫数の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。		

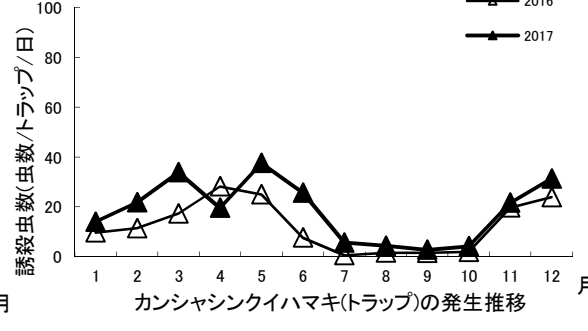
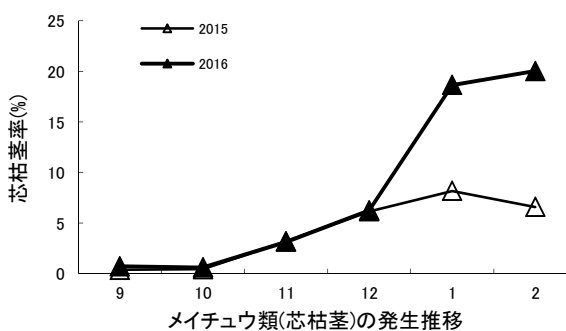
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 1月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯莖率は12.5% (前年20.0%、平年9.1%) と平年並であった。また、芯枯莖切開調査の結果、確認された幼虫のうち61.3% が本種であった。
- ・ 1月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は30.4頭 (前年14.0頭、平年12.7頭) と平年より多かった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

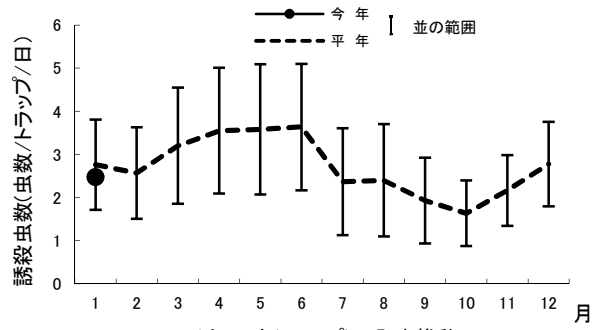
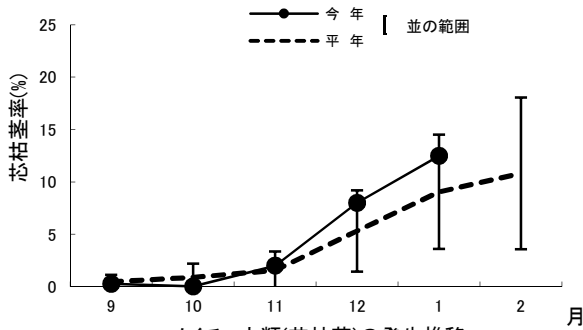
- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、莖と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類 (イネヨトウ)		
1月の発生量 (現況)	並		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。		

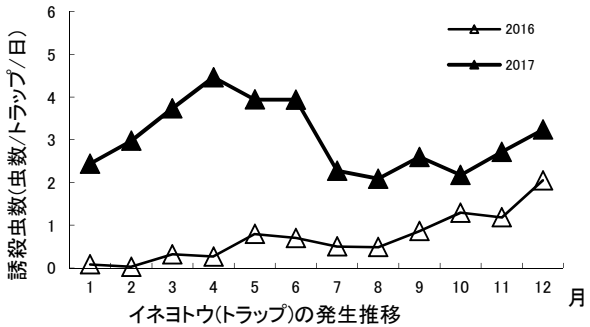
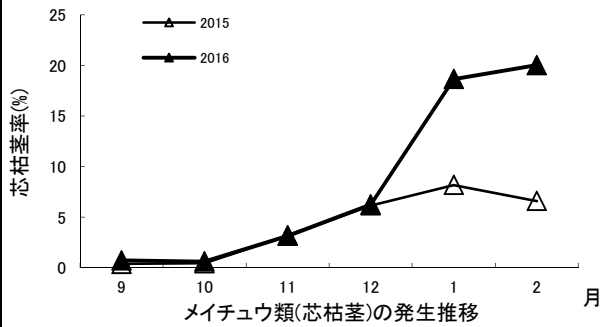
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 1月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は12.5% (前年20.0%、平年9.1%) と平年並であった。
- ・ 1月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.5頭 (前年2.4頭、平年2.8頭) と平年並であった。

(今年のデータ)




メイチュウ類(芯枯茎)の発生推移  
(過去2年のデータ)



防除のポイント

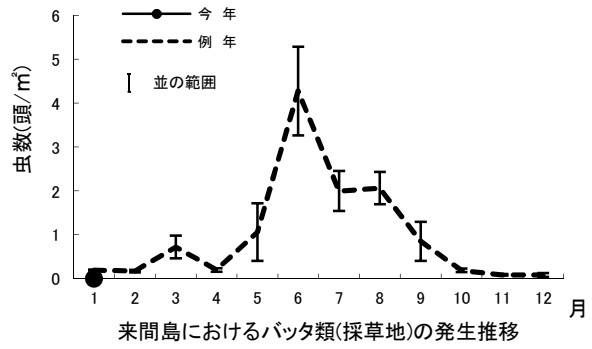
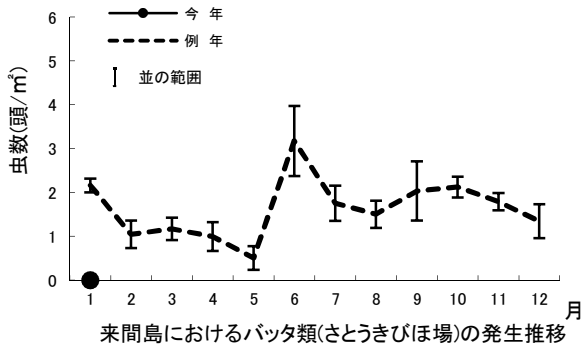
- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時、培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
1月の発生量（現況）		判定不可	
2月の増減傾向		↘	
増減傾向の根拠		来間島について、さとうきびほ場における成虫数の例年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。	

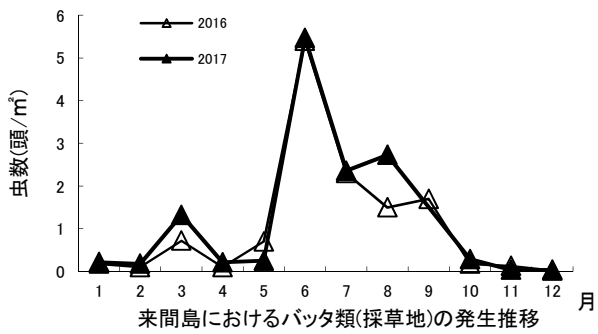
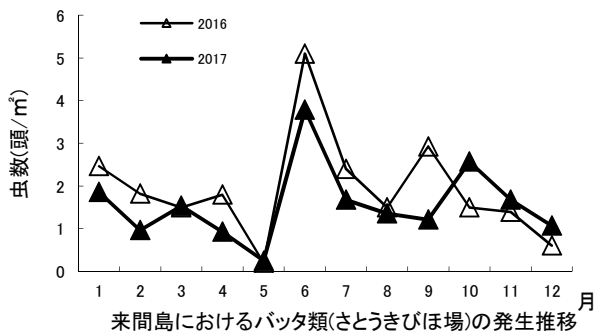
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 1月下旬の来間島での調査の結果、さとうきびほ場、採草地の平方メートル当たり虫数はそれぞれ、0.1頭未満、0頭であり、発生種はタイワンツチイナゴであった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・ 成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。